

平成三十一年度国語解答例

一

問一 自分の顔を食べさせること。

顔がとり替え可能であること。

問二 臓器移植などの医療技術およびES細胞やiPS細胞などのバイオテクノロジー。(三十七字)

問三 iPS細胞による自己の身体の複製により、自己犠牲と自己を救うことの回路が一個体の中で完結するようになる。(五十二字)

問四 (1)依拠 (2)映像 (3)所作 (4)抵抗 (5)矛盾 (6)顕示 (7)罪悪 (8)拡張

二

問一、(a)は「非常に」という意味の副詞的に用いられており、(b)は「才能が優れている」という意味で用いられている。

問二、AⅡぬ BⅡざり

問三、(1)大納言は全然鷹を見つけない

(2)天皇は大納言の顔をじっとご覧になるばかりで

問四、①いほで

②鷹の名前の「撃手」と「言ふ」の未然形に「で」のついた「言わないで」の意の「いほで」が掛かっている。

③鷹の撃手を惜しむ気持ちは、口にせず心に思っている方が、口に出しているのよりまさっているということ。

三

問一 質

問二 其性

問三 草をして木と為り、木をして草と為らしむる能はざるなり。

問四 (d)は人それぞれの素質に応じて(素材を生かして)治めることであるのに対し、(e)は自分の意思をおしつけて人を治めることである。

四

問一 日本は、総合順位で二〇〇六年に八〇位であったが、二〇一七年では一一四位、経済分野では八三位から一一四位、政治分野は八三位から一二三位と後退している。日本も指数としてはわずかに上昇しているものの、世界平均の上昇に追い付かず、各国に追い越され順位を下げていくということが推移として指摘できる。(一四四字)

問二 日本は、教育分野および健康分野に関してはジェンダーギャップが大きいわけではない。ただし、高等教育在学率に関しては女性の進学率が高くない。

日本は、政治分野に関してジェンダーギャップが非常に大きい。二〇〇六年時点に比べると二〇一七年では若干改善しているが、順位は下がっている。

日本は、経済分野に関しては、特に勤労所得の男女比、議員・幹部職・管理職の男女比、専門職・技術職の男女比でジェンダーギャップが大きい。二〇〇六年時点に比べると二〇一七年では若干改善しているが、順位は下がっている。

問三 (略)